

サッカー審判 女子1級合格

日本サッカー協会公認の女子1級審判員に瀬戸内市出身で、川崎医福大2年の広田奈美さん(20)＝同市長船町土師＝が岡山県出身者としては初めて合格した。国内女子トップの資格を得て「夢が現実になった。わくわく感でいっぱい」。満面の笑みで喜ぶ。

資格は4～1級まであり、4月1日現在で男女合わせた全審判員約26万4千人のうち、女子1級は54人。なでしこリーグや全日本女子選手権など国内最高峰の試合で主審を務めることができる。今回の試験は初挑戦の広田さんから11人が受験。1年間かけ実技や筆記を行い、12月上旬に5人が難関を突破

川崎医福大2年 広田さん(瀬戸内)



岡山県出身初「笑顔で試合円滑に」

した。広田さんは試験に向け、多い日で10キロを走り込むなど日々トレーニングを欠かさず、競技規則もしっかりと読み込んだ。審判も例年以上に多い60戦ほど務めてレベルを上げ、一発合格につなげた。審判員を志したのは瀬戸内市の国府小時代、地元サッカークラブに入ったのがきっかけ。チームの指導者に勧められて

サッカーの女子1級審判員に合格した広田奈美さん

興味を持ち、長船中1年で4級を取得。上級者の審判を見ているうちに「レフェリングが的確で態度も毅然としている。もっとうまくなりたい」との思いが強くなったという。芳泉高在学中は、女子サッカー部に所属しながら県内大会の主審が務められる3級、中国地方など地域大会で主審が可能な2級に相次いで合格した。

来季は国内トップクラスのレフェリーの一員として笛を吹く。「笑顔を振りまく自分のスタイルで、試合を円滑に進めたい。責任は重くなるけど、楽しむ気持ちを忘れず成長していく。将来はワールドカップなど国際大会の審判もやってみたい」

現在、クラブチーム・ブランカス倉敷で選手としてもプレーする広田さん。149センチと小柄な体にあくなき向上心を秘め、さらなる飛躍を追い求める。

(平野裕久)